

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	鳥取県立鳥取療育園		
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 22
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・ご家族同伴で活動参加することで、児童の姿や発達、支援について、タイムリーに共有できる。 ・活動と並行し、保護者会や勉強会を行っている。	・生活(家庭、園等)と活動が連携して行われやすいように、生活の様子や児童のあそび、ご家族のかかわり方等を聞き取っている。 ・定期的に保護者会や、同伴したご家族に対して職員や外部機関・先輩保護者を講師に迎え勉強会を行っている。	左記の取り組みを継続し、家庭・園等と細やかな情報共有に努めるとともに、ご家族のニーズ・要望をもとに保護者支援をより充実させていく。
2	保育活動をとおり、各種専門職(医師、PT、OT、ST、保育士、児童指導員、看護師、心理療法士)、が子育て支援と発達面・医療面への専門性を活かした助言を行うことができる。	・活動前後には、多職種が参加し児童や支援について等打ち合せと振り返り等の機会を必ず持っている。また、定期的な個別支援計画書の見直しも多職種で行い共有している。 ・ご家族へとの情報共有と、丁寧なフィードバック。	児童ひとりひとりの状況や発達にあわせて柔軟に対応や活動するために、都度より細やかに児童をアセスメントし、5領域それぞれの支援内容が充実することに努める。
3	他機関※との情報交換・会議参加、実支援場面への見学や職員研修の機会があり、専門性の向上へ取り組んでいる。 ※県内県立療育機関、相談支援事業所、保育園、幼稚園、学校、児童発達支援	関係機関とは、活動の場をお互いに行き来しての情報共有・支援・介助方法の共有を積極的に行っている。	左記の取り組みを継続し、児童の細やかな情報共有やアセスメントにつなげる。また、さらに様々なニーズに対応できるよう支援職員のスキルアップを図る(伝達研修、多職種でペアを組み他機関の訪問を行う等)。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当園が行っている事業の仕組みや外部評価の在り方について、園内での周知が不足している。	対利用者・関係機関の支援に注力し、施設全体についての細かい説明が不足している。	改めて、園事業や年間スケジュール等について説明・共有の機会を持つ。
2	県立機関であり、定期的な人事異動のため職員の経験年数が一定しない。	療育機関での業務従事経験が長い職員の経験に頼った支援となりがちになっている。また、他事業との兼務や実支援にかかる時間が長く、職員育成の取り組みが十分にできていない。	計画的な職員育成・スキルアップのために園全体で取り組む(実際の支援場面での助言、園内外研修等)。
3			